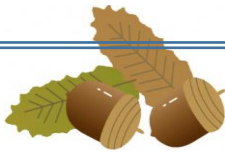




倉田小だより 10月号

～つながり いきいき 倉田っ子～

横浜市立倉田小学校



「キツネダンス」から学ぶこと

校長 末松 隆一郎

朝晩の風の冷やかさと日に日に高くなる空の色、街のそこかしこに遠慮がちに咲く秋桜が、秋の深まりを強く縁取る秋麗の頃となりました。

学校では前期終業の時期、そして、10月15日に予定されている運動会に向けて、練習や準備に子ども達の躍動が加速化しています。今年度は3年ぶりに全校一斉の運動会となります。自分たちの頑張り、そして他学年の頑張り、を、年度後半のそれぞれの成長の糧にしてほしいと思っています。

9月26日(月)、校庭にて全校朝会がありました。そこで、運動会3週間前でもある今回、こんな話をさせていただきました。内容を詳細化して記させていただきます。

このダンスは、北海道日本ハムファイターズの応援ダンスで、「キツネダンス」といいます。日本ハムファイターズの試合を見に行くと、インニングの合間に、日本ハムのチアリーディングチーム・ファイターズガールが、お客さん達と一緒にこのダンスを踊り、とても盛り上がっています。

この「キツネダンス」は、今年新庄監督になった新チームをもっと盛り上げようと、3月の札幌ドームの試合で初披露されました。この曲とダンスが決まったのは、2月頃で、その個性的な曲調とダンスにファイターズガールの人達も、「えっ、この曲で踊るの?」「ファンに受け入れられるかどうか・・・」「小さい子が怖がらないかなあ」と、一様に不安を抱いたそうです。でも、球団ファイターズガール担当の尾暮沙織さんは、「この曲は、ノルウェーのコメディアン兄弟デュオ・Ylvis(イルヴィス)が2013年に発表し大ヒットした曲で、YouTube再生10億回以上視聴された曲。耳に残り癖になるこの曲は、絶対いける!」と思ったそうです。

そして、初披露の日、ファイターズガールの不安は現実となり、観客の反応はまったくありませんでした。というより、あまりに個性的な曲と踊りに、いわゆる「ドン引き」状態だったそうです。尾暮さんや日本ハムの球団関係者も、「客席が静まり返る中で踊っている彼女たちがかわいそうになった」というほど、最初は厳しい船出でした。それでも、ファイターズガールは毎日笑顔で元気いっぱい踊り続けました。そして、ようやく1か月を過ぎたころから、一緒に踊るお客さんが増え始めました。きっかけは、この曲に「取りつかれた選手達」でした。日本ハムの選手だけでなく、相手チームの選手までも、ファイターズガールの動きに合わせて踊りだし、その様子がYouTubeで配信されると、たちまち大ブームになったそうです。少し時間はかかりましたが、ファイターズガールの人たちが、自分を信じて、笑顔で、元気よく、そして、一生懸命踊り続けたからだなあ、と思います。



※朝会では、6年生が2階ベランダからキツネダンスを上手に踊って披露してくれました。

運動会練習が熱を帯びてきた時期を踏まえ、「みんなも、運動会当日は、ファイターズガールの人たちのように、笑顔で、元気よく、力強く、そして、一生懸命がんばってください。きっと、それが、素敵な感動となって、観ている人たちに伝わります。」という言葉で朝会を締めくくりました。

「あきらめない心」「笑顔の大切さ」「一生懸命の尊さ」、コミカルな曲調から様々な学びがある「キツネダンス」。運動会の取組を通して、ファイターズガールに負けない一人一人の輝きがさらに増すことを心から願っています。